



Newsletter vol.35



北海道博物館では、第21回企画テーマ展を2月10日(土)に開幕しました。

本展は、30名を超える学芸員・研究 職員一人ひとりが、各専門分野の資料 を展示する企画。それぞれの個性が遺 憾なく発揮された展示会です。

今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためしばらく休止していた「ミュージアムトーク」が復活。職員が特別展示室内で自分の一押しの逸品について語りました。この解説を聞くと、また違った角度から展示が見えて

きたのではないでしょうか。 (研究職員 吉川佳見)



ミュージアムトークのようす

CONTENTS

- 2 収蔵資料紹介 宝箱から飛び出した小さなお宝
- 総合展示紹介・第2テーマ 「ある家族の物語」のものがたり
- 研究活動紹介 植物化石や地学の楽しさを伝えていきます!

はっけん広場活動報告

- わらで作るミニミニお正月リース 第21回企画テーマ展 「森のちゃれんが宝箱」を開催しました
- アイヌ民族文化研究センターだより Zoomを使った講座を開催しました
- 8 活動ダイアリー 2023年12月~2024年2月の記録

収蔵資料紹介

宝箱から飛び出した小さなお宝 「ボラドーレス」の笛と太鼓?―

甲地利恵 アイヌ文化研究グループ 研究職員

この太鼓 (写真1右) 収蔵庫で初めて 出会ったときは、とても小さくて(直 径約13cm)、カラフルなこともあり、 一瞬「おもちゃ?」とも思いましたが、 手の込んだ、演奏に耐えられるつくり の太鼓です。2020年の第17回企画テー マ展「楽器 見る・知る・考える」*1 の準備中のことでした。

資料データベースによれば、メキシ コの先住民族の民具とのこと。

(現在の北海道博物館では、「北海道及び北海道 と関連の深い諸地域」の資料に収集対象を限定 していますが、旧北海道開拓記念館の時代に収 集された資料の中には、それ以外の地域のもの が含まれていることもあります。)

ほかにもメキシコ先住民族のものと される資料がいくつかあり、写真1左 の縦笛もその1つでした。材料は植物 で、吹き口はリコーダーと基本的に同 じつくりですが、リコーダーよりも丈 が短く、指穴が表裏あわせて3つです。

上述の「楽器」展で協力いただいた、 楽器学とくに鹿笛研究の第一人者であ る枡谷隆男さんにみていただくと、こ の笛と太鼓とで1セットだろう、との こと。英国~西ヨーロッパには、1人の 奏者が同時に演奏する一対の笛と太鼓

(英語では「パイプ・アンド・テーバー」) が、中世から伝わっています。また、 世界の各地にもいろいろな「パイプ・ アンド・テーバー」タイプの楽器がみ られます。

当館の資料が同類とみなせる決め手 は、笛に指穴が3つしかないこと。太 鼓のバチを片方の手にもって打つため、 笛はもう片方の手でしか操作できない ので、指穴の数も限られてきます。な お、中が空洞で穴が最低3つあれば、 穴をふさぐ組み合わせと息の強弱で、 オクターブ以上のメロディを演奏でき るということです。

* * *

メキシコの先住民族のいくつかには、 「Danza de los Voladores (ボラドーレスの 踊り)」などの名で呼ばれる儀式*2が伝 わっています。その儀式のあいだじゅ う、小さな笛と太鼓とを1人の奏者が 演奏し続けます。中には当館の太鼓と 模様など外観がそっくりなものもあ り、当館の資料はこの儀式で使われる 楽器か、少なくとも同じタイプの楽器 である可能性が高い、と考えられます。

この伝統儀式は、まず樹木を選んで 切り出し (**写真2**)、高い柱にして立て (写真3)、供物をささげます。その後、 4人の「ボラドーレス (=飛ぶ人)」と そのリーダーが柱の頂上の回転する 木の枠まで登ります (写真4)。4人はロ ープで逆さになって空中を回転しなが ら少しずつ降下し、やがて着地します。 それまでのあいだ、柱の頂上ではリー ダーが笛と太鼓を演奏し続けます。

深刻な干ばつを免れ、恵みの雨をも たらすハリケーンを招くとともに、そ れが暴れないよう制御し、自然界に敬 意を表し祈るために、こうした一連の 流れの儀式が、古くから伝えられてき たといわれます。

* * * * *

ただいま当館では、第21回企画テー マ展「森のちゃれんが宝箱」を開催中 (4月7日まで)。この笛と太鼓も展示し ています。

ぜひ実物を見にいらしてください!

- *1 コロナ禍で開催中止、オンライン公開のみ。
- *2 UNESCO (ユネスコ/国際連合教育科学文 化機関)の「無形文化遺産一覧」には、2009 年に「Ritual ceremony of the Voladores (ボラ ドーレスの儀式)」の名称で記載。



写真1 笛 (資料番号126176) と太鼓 (資料番号126175)









写真2 中央の木の後方に笛と太鼓の (※) 奏者(ボラドーレスのリー ダー)が写っている。

写真3 柱を立てるところ。笛と太鼓 の奏者が右手前に逆光で写 っている。

写真4 飛びだす前のボラドーレスた ち。中央に立つのはリーダ (※)

※写真2・3・4は、メキシコ国立自治大学でボラドーレスの儀式などを研究されている Luisa Villani さんによる「The Voladores (Flyers') dance ceremony amongst the coastal peoples of Totonacapan - an aquatic ritual (2022, ウェブサイト「Aztecs at Mexcolore」) より。Villani さんにはボラドーレス儀礼についてご教示いただきました。 記して感謝申し上げます。

総合展示紹介・第2テーマ

「ある家族の物語」のものがたり

小 川 正 人

アイヌ民族文化研究センター長



写真 1 第 2 テーマ「アイヌ文化」の世界の入り口。左側が第 2 テーマのサインと「現在を知る」、右側に「伝統を学ぶ」、奥に「ことばを聴く」の展示コーナー。

1 総合展示第2テーマ 「アイヌ文化の世界」の構成

当館の総合展示は5つの大きなテーマで構成されています。その第2テーマが「アイヌ文化の世界」です。

「アイヌ文化の世界」は4つの中テーマで構成しています。先ず「現在を知る」を置き、次に「伝統を学ぶ」(伝統的な衣食住などの生活文化や信仰・儀礼)、「ことばを聴く」(アイヌ語とアイヌ語で語られた文芸や芸能)、「歩みをたどる」(近現代の歴史)という組み立てにしています。先ず〈現在〉を考え、その上で伝統的な生活文化や伝承されてきた(あるいは、伝承されてしかるべきだった)文化を紹介し、その上で歴史をたどる、という順序を考えました。

2 現在を知るための「家族の物語」

「現在を知る」の最初のパネルの文 章は、次のとおりです。

「現在のアイヌ民族の人口は数万人ともそれ以上ともいわれています。多くは北海道に住んでいますが、就職や進学、結婚などをきっかけに、東京や大阪など各地にくらしの場を移した人たちもたくさんいます。北海道でも、ここ札幌市をふくむ各地にくらしています。現代では、アイヌの人たちだけが住む村のようなものがあるわけではありません。現在のアイヌ民族は、日



写真 2 展示の最初の部分。家族の紹介に続いて、物語が始まります。

本のほかの人びとと同じ地域のなかで、ともにくらしているのです。」

解説として書けば、おおよそはこの 文章のようになるのだとは思います。 しかしこの文章だけでは、「日本のほ かの人びとと同じ」というところだけ が印象づけられるかもしれない。けれ ども〈現在〉を知るためには、そこま での歴史、特に明治以後の厳しい歴史

3 現在へと続く、ある家族の物語

物語の主人公は、いま札幌に暮らすある家族の、小学生の「ぼく」です。「ぼく」です。「ぼく」は、あるきっかけから、自分の家族の歴史――江戸時代の終わりごろから現在までつづく家族の歴史を、祖父母や父母から聞いていきます。家族の対話を追いかけていくことで、現在(いま)へと続く物語をたどっていただければと企図したのでした。

物語に登場するのは架空の家族で す。しかし時代の背景やできごとは、 実際の歴史をもとにしています。制作 にあたっては、いったん細かく・詳し い物語を書き込み、そこから展示で取 り上げる内容を選び出していきまし た。展示を作った側として、家族が経 験した出来事の背景にあった、当時の 施策や制度などはもう少し具体的に伝 えるべきだったか、といった反省や、 2024年の今であれば、ウエブ上で流通 しているアイヌ民族に関する情報のあ り方をこの家族がどう感じているか、 というテーマは欠かせないな……な ど、日々感じることもあります。それ ぞれの時代の、それぞれの人びとが、 どんな社会を、どのように生きてきた のか。それらをたどることを通して、 北海道の歴史と現在を知り、考える素 材になれば幸いです。

・カーボ 得意。食いしん坊を自認! 守の母親がアイヌであることは知っ 1ないし、少な(どもぞいうふうによ	ており、そのことに関する収集の信頼などもかまで外 るまってきた。 り調べてみようという信頼があった。このとかは、他な	:他れて見聞さしてさた。また載述では噂がアイス文	化に関心を持っているのを検討で見ている。ただ、も		
5世代前 (1850年後年まれ)	€111 AE2027700	5-BE 6112 ARXOHY791	お行わり作品となる。 ・行いなみの表示の表示で表現で表したのなっていたが、こ	RCの12777のわる関係 キッセフルの収集等名(業性化二組合フイタ度有額):	95 221(8:4):
・関系は全まは、現金機能の、アイの場合、 水力を高端を受けませまった。 ・伝統的と18次数のキャで物、それ23年 場合の需要としまってかった。 を見から無対しまってかった。 ののからを構造してきたい。 はではかく、新し、様に発金の支軽に向 関心を持ち続い、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	AMPROGRALICAGE, EGAPMENDADES.	の確定しますを含む。資明の意思した場合できる。 使用している。 は、 ので	のこれである。中ではおからからまりなったの様々のなどのでは、 ではない。 ではない。 ではない。 ではない。 はないました。 はない。 なない。 はない。 なな、 なない。 なない。 なない。 なない。 なない。 ななな。 ななな。 ななな。 なな、 なな、 なな、 なな、	無限報告報子での場合の無限を開発しませたのある。 特別の資本と、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して	生産の他とに設 装幅を入れる。
	AND ADVISION OF THE PARTY.	NO. 620 R. C. C. C.	MARK BOALDERS BLIEFS AND ALTON	A SERVICE OF THE PROPERTY OF T	5.1.400-45.0
4世代第(1498年度刊) 市場で一度的、金融資産計画以及第二 中の第二条の社会が大いできなができた。 中の第二条の社会が大いできなができた。 を表現して、「大いーのは明知できた。 大人世代、「おかー・ジボイン 大人世代、「おかー・ジボイン のかった。 のかった。 では、 かった。 では、 かった。 では、 かった。 では、 かった。 では、 かった。 では、 かった。 では、 かった。 では、 かった。 では、 かった。 では、 かった。 では、 かった。 では、 かった。 では、 かった。 では、 かった。 では、 かった。 では、 かった。 では、 かった。 では、 かった。 でいた。	(前の中間できまた) 原因長の子だなどのため、実施と称うと思います。一般に直 がたると、アイツの国際とは参加という。 に関いますた。するなどなどでは高速的上で様という。 またなどでは、ない情報上がからた思っては、 でイスを見たした。ない情報上がからた思っては、 アイスを見たした。ない情報上がからた思っては、 でイスを見たした。ない情報上がからた思っては、 など、かって大会になっては、から、単一で表がなからからない。 など、カッドではないまた。から、単一で表がなからからない。 この、一年のからないないまた。	のできまった。 The Control of The Contro	が明に対称より報え、村田、田田、田田などのが正を登録すると なりません。 ・さとからえ、機能して前りますられた方便所に取り込んであった。 だ、 ・付き間をつかなる者できて、何代が定かったことを知道。最高 を手に入れてはたけらばられた。 一個によるなったが、一般の情があった場とからなった。	の金属地グラインの会社のセグバーの場合。 の対して対象のでは、上のであるとは、地方などの 地面の資料とであり、一般である。 地面の資料とであり、 地面の資料とであり、 をは、生まり、 をは、生まり、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは、 をは	0.32540000 6955, 8403 1.58083250
3分代数(1917年報告連升) ・協議の指揮を対すする方を向北。 決比、総言選挙を認予・一時間、様々な構 選挙となる場合でもは、本なな 選挙となる場合でもない。 大学等報令・一を選挙を認めるが表示が、 高子と時代、 高子と時代、 高子と時代	中で、単ななマイター は対象を対象に対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	■10、日本日子では、 の報告を主張、自然は1200人とかったの事業では、他に会けている。 の表現を目的に対している。これではなる。これではなる。 では、1200年に対している。これではなる。 のようになった。 のようになった。 のは、ではない。これでは、1200年に対している。 のは、ではは、1000年の前分では、1000年の前分の前分では、1000年の前分の前分では、1000年の前分では、1000年の前分の前分では、1000年の前分の前分の前分では、1000年の前分の前分では、1000年の前分の前分の前分の前分では、1000年の前分の前分の前分の前分の前分の前分の前分の前分の前分の前分の前分の前分の前分の	人人においませんの対けに、人とかどくからと考えている。 ないから、他のはから、ののから、他に対して対している。 ないから、ののから、ののから、他に対している。 ・他を考えているできてきかってきまった。 ・他のもまった。これが、ののから、ののから、のののののの はい、から、を見ないたから、からないためのから、 はい、から、を見ないたがら、からないためのから、 はい、からないまた。 ・他のはおいまた。 はい、からないまた。 ・他のはおいまた。 はい、からないまた。 ・他のはおいまた。 ・他のはおいまた。 ・他のはおいまた。 ・他のはおいまた。 ・他のはおいまた。 ・他のはおいまた。 ・他のはないまた。 ・他のはおいまた。 ・他のはないないまた。 ・他のはないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	の関いまれたなおのは、日本のでは他が関いませんから を対する場合、データを対している。 とと参加を開始している。 を対しているが、 を対しているが、 を対しているがある。 を対しているがあるがある。 を対しているがあるがある。 を対しているがある。 を対しているがあるがある。 を対しているがあるがある。 を対しているがあるがある。 を対しているがあるがある。 を対しているがあるがあるがある。 を対しているがあるがある。 を対しているがあるがある。 を対しているがあるがあるがある。 を対しているがあるがある。 を対しているがあるがある。 を対しているがあるがあるがある。 を対しているがあるがあるが、 を対しているが、 を対しているが、 を対しているが、 を対しているが、 を対しているが、 を対しているが、 を対しているが、 を対しているが、 をがしているが、 をがしているが、 をがしているが、 をがしているが、 をがしているが、 をがしているが、 をがしているが、 をがしているが、 をがしているが、 をがしているが、 をがしているが、 をがしているが、 をがしているが、 をがしているが、 をがしているが、 をがしているが、 をがしているが、 をがしているが、 をがしなが、 をがしているが、 をがしなが、 をがしなが、 をがしなが、 をがしなが、 をがしなが、 をがしなが、 をがしなが、 をがしなが、 をがしなが、 をがしなが、 をがしなが、 をがしな	(東一位)
2世代教(1946年間発生業) 南京・福祉とから、砂田園、田田恵 東京・成立、石田・大学、日本日から終 南田・大学、石田から (4.5~からからから東京の海岸により 中一学を発明的 は、一般の大学、カージ、アイジ、アイ助 のたというなど、アイが、アイが、アイ助 のたというなど、アイが、アイが、アイ助 のたり、アイジ、アイ助 のたり、アイ・アイシ、アイ助 のたり、アイジ、アイ助 のたり、アイジ、アイ助 のたり、アイジ、アイ助 のたり、アイ・アイシ、アイ助 のたり、アイ・アイシ、アイ助 のたり、アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・ア	機。 - 20 - 10 のころ、名並与にいて対対するころもに見初めたのでは (34) 、 作を日の間をなりにはなり回答と思るもとったが、まつ	の場合を含めています。 の場合は関連の多っており、ままであり、 文(17)は自体の多っており、ことはなり、 の(18)は自体の多っており、ことはなり、 のできるのがませっていないよけても関係のでありからには もないまし、他のの前でジを実施した後、、原理大学の情報 もないまし、他の前のジングでは、ままりからしました。 のの前に「19 00からを指すしてが、ままりからしました。 のの前に「19 00からを指すしていまる。そのからいませいだか。 のの前に「19 00からを指すしていまる。そのからいまじょだか。 のが前に「19 00からを指すしていまる。そのからいまじょだか。 のは、ままりからいまないまない。 のは、ままりからいまないまない。 のは、ままりからいまないまない。 のは、ままりからい。 のは、ままりからい。 のは、ままりからい。 のは、ままりからい。 のは、ままりからい。 のは、ままりからい。 のは、ままりからい。 のといる。 のといる、ままりからい。 のといる。	は、これは、アイアのようでは関係をいないはない。ないのは、 は、物質があるでは、物で物質があるであった。これでは、 またが、入り回転にないから。 またが、入り回転にないから。 ないのは、ではないから、 ないのは、ではないが、では、発表にないがある。 でイアのように対象を対象をは、ないが、表表にないがある。 を対象が、では、これがあるではあったが、というないは、 を対象が、では、これがあるでは、 ないのは、これがあるでは、 ないのは、これがあるでは、 ないのは、		
1世代数(1970年度上版制) を対抗点のでで成人に含またの可能に含 を対抗点のでで成人に含またの可能に含 をでする情報でなる方が声響を、提供し 人を認え、 人を認え、 人を認えたの他所・選挙についての概要があ から、たいさの様での意味がからなら解析 があったとの様での意味がからなら解析 に対する様々を開かまたがってことを描 でかって、	第20 次代的は の内外では1、個別等からます。ためではなったから大学に進 における他の、個別を対象では当代は、 における他の、個別を対象では当代は、 の事等は、はない。 の、事業のでからないとなったのかままなとはは、任き合っ に、現実のでからないとなったのかままなとはは、任き合っ に、対象になったがある情報にして、他の相等 の場合では、これかのである。	14日 前27-707 計分等をおしまか。 出社株とも、名称で1501年17-7時におおれ、名前の国際人 を発する。これは、1501年17-7時における時の日本体とこれは を発する。これは、1501年17-18日には、日本体が出版があるかか。 が日本なから、1501年17-7年17-7日においては、1501年17-7年17-7日においては、1501年17-7年17-7日においては、日本体が出版。1501年17日により、1501年17日に		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	

写真3 展示制作にあたり、家族の歴史をいったん細かく作り込んでみた検討資料です。

研究活動紹介

植物化石や地学の楽しさを伝えていきます!

成田敦史

研究部自然研究グループ 学芸員



1984年、北海道生まれ。北 海道大学大学院修了。2008 ~2021年度は高等学校教諭 として勤務。博士(理学)。 専門は古植物学と地学教育。 左の写真は、化石採集に夢中 になっている筆者。

植物の化石もある!

皆さんは、「化石」と聞いたらどんな 古生物を想像するでしょうか?各種講 演や授業などで同じ質問を投げかけま すと、返ってくる答えとしては、「恐 竜」、「アンモナイト」、「三葉虫」、「マ ンモス」などが大多数を占めます。少 し詳しい方からの「アノマロカリス」 や「始祖鳥」などの答えもあります。 これらの古生物は、いずれも動物で す。しかし、ここで声を大にしてお伝 えしたいのは、植物も立派な化石にな るということです。植物も化石になる の?という声が聞かれることもありま すが、もちろん植物の化石もあります。 あまり知られていないようですが、北 海道からも多くの植物化石が見つかっ ています。

その化石の状態にもよりますが、葉

脈がはっきりと残っている葉の化石(図 1) や、細胞の配列が立体的に残って いる材化石など、まるでいま生きてい る植物ではないかと見間違えるほど美 しい状態の植物化石もたくさんありま す。北海道で多産する石炭や花粉・胞 子化石なども植物化石です。

植物化石を研究材料に、地質時代の 植物の姿、植物の系統や進化史、古植 生、陸上の古気候(大昔の気温や降水 量など) などを明らかにしていく研究 分野が古植物学です。私は大学生のこ ろから北海道内の各地域・様々な時代 の植物化石の研究を行ってきました (図2)。また、古植物学やそれに関係 する地学全般の効果的な教育について も研究と実践を重ねています。今回は、 私の行っている植物化石の研究と地学 教育についてご紹介します。

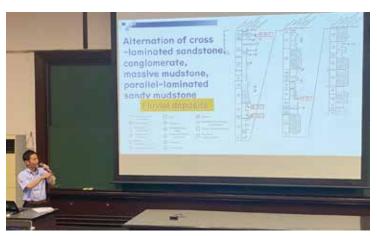


シラカンバに近い広葉樹の葉化石 (Betula protojaponica) 。 糠平湖畔の680万年前の地層から採集。

植物化石から植生と気候を復元する

恐竜やマンモスゾウの姿を復元する には、当然ですがこれらの化石を調べ る必要があります。では、それらの動 物が生きていた時代に、周辺の陸上に はどんな環境があったのか、について はどのように調べるのでしょうか?答 えは、「化石が含まれていた地層や植 物化石を使って調べる。」です。恐竜 などの陸上動物の周辺にあった植生や 陸上の気候は、植物化石から明らかに することができます。

地質時代の植生や気候というと、「恐





左写真;国際学会で発表している筆者(2023年8月)。スライドは、本別町で見られる地層の積み重なりを表した図(地質柱状図)。 右写真;その図の基になった実際の地層の一部(斜交層理砂岩層)。

竜の時代にはソテツのような裸子植物が多く、気候は温暖でした」などとザックリとした推定はよく耳にするかもしれません。実際には、植物化石と地層の解析(図2)から、「9000万年前の北海道では河川付近の洪水の起きやすい場所にスズカケノキなどの広葉樹が、河川から遠い場所ではナンヨウスギなどの針葉樹林が存在した。」というような、より詳しい局所的な古植生も明らかにすることもできます(図3)。

古気候についても、葉化石の縁にギザギザがついているか、いないか、葉の先端は長く伸びているか、いないか、などの形を観察して集計し、数学的な手法を用いることで、過去の年平均気温が具体的に何°Cだったか、降水量は何mmか…などのかなり詳細な気候条件の算出と解析ができます。すると、例えば1300万年前当時の北海道北部は現在よりも2~3°C気温が高く、冬場の降水、すなわち降雪も多く、秋田県あたりのような気候だったこともわかります(表1)。これほど詳細が復元できるとは、かなりの驚きのことではないでしょうか。

高山植物の祖先?の葉化石

現在、私は十勝平野の700万~100万年前ころの植物化石群の研究に特に力を入れています。一部には新種と考えられる化石も含んでいます。これまでほとんど報告のなかった高山植物の祖先かもしれない植物の葉化石も見つかっています。研究の進展にご期待ください。

楽しさを伝える地学教育

私は小学校入学前から「恐竜大好き 少年」でしたが、縁あって植物化石の 研究を行うことになりました。動物化 石では決してわからないような大昔の 環境のことも調べられる植物化石の魅 力にすっかりハマりました。こんなに

図3 植物化石と地層の解析から推定される後期白亜紀の北海道付近の植生のイメージ図(Narita et al. 2008などを基に作成)。

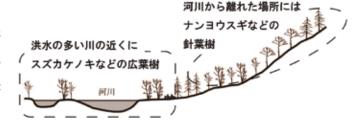


表 1 葉化石群から計算された古気候データの例と、比較対象の現代の洞爺湖の気候データ (Narita et al. 2020; 成田・乙幡 2023より引用)

地域/ 植物化石群	時代	年平均気温 (°C)	暖かい3か月間 の平均気温(℃)		気温年較差 (℃)	年間降水量 (mm)
洞爺湖	現在	7.7	21.5	-3.14	26.7	1280
十勝幌加(糠平温泉)	680万年前	8.4	20.1	-2.47	22.6	1336
湖南(士別市)	1300万年前	8.2	20.3	-3.10	23.5	1830

楽しい世界を知らない人が多いというのはもったいない!という思いと、古植物学のみならず関連する地学の各分野にも関心が強かったこともあり、一度は高校教諭として教壇に立ちました。そのころの経験や古植物学の研究内容も活かすことで、年齢や関心に合わせた地学の各種講座や巡検なども積極的に行っています(図4)。

残念ながら現在の地学教育は充実し ているとは言い難い状況です。だから こそ当館などを利用して、実物の化石 や地層を観て、感じて、周りの世界の 見え方が変わる体験が重要になりま す。その際、化石や地層を漫然と見て 終わるのではなく、"視点を絞って" どこをどのように観察するかが重要な のです。また、教えすぎも逆効果です。 そこで、「探究心」を高めるため、博 物館資料を観察する様々な課題を学ぶ プログラムやワークシートについても 作成中です。例えば、実際の骨格を見 て、「なぜマンモスゾウの方がナウマ ンゾウより体が大きいのか」、「なぜ歯 の化石は他の部位の化石よりも多産す るのか」、などを考えるようなプログ ラムです。このような探究を通して、 見える世界が変わると、学ぶことも楽 しくなってきます。視点を変え、「学 ぶって楽しい!」と思えるような地学 教育をさらに進めたいと考えていま



図4 小学生に化石のレクチャーをしている筆者。

す。古植物学の研究と並行して、地学 教育の充実にも務めていきます。

引用文献

- Narita, A., Yamada, T. and Matsumoto, M., 2008, Platanoid leaves from Cenomanian to Turonian Mikasa Formation, northern Japan and their mode of occurrence. Paleont. Res., 12, 81-88.
- Narita, A., Yabe, A., Uemura, K., and Matsumoto, M., 2020, Late middle Miocene Konan Flora from northern Hokkaido, Japan. Acta Palaeobot., 60, 259-295.
- ・成田敦史・乙幡康之,2023,北海道中央東部糠平湖周辺の後期新生代の古植生と古環境:後期中新世十勝幌加植物群と前期更新世タウシュベツ植物群.地質学雑誌,129,289-305.

はっけん広場活動報告

わらで作るミニミニお正月リース

博物館の入口をはいり、エントランスホール右側の階段をさがって進むと、そこは「はっけん広場」。こんなことを体験できます。

北海道開拓記念館の時代からこの場所では年末になると、知る人ぞ知る恒例「しめ縄作り」が行われていていました。北海道博物館になってからも常連さんには、人気の「はっけんイベント」として継続しれていました。コロナ禍で「はっけん広場」が閉鎖されたことでこの企画も中止。この企画を「途絶えさせてはならない」との使命感で再開しました。

今回は、伝統的なしめ縄を少しアレンジしたミニリースづくり。短時間で気軽に参加できる内容で企画しました。大物のしめ縄を作るのは、大人の方でも汗をかくほどの力仕事ですが、初めての方や力の弱い方にも作りやす



写真1 飾りはアレンジ自由

いようにしました。飾りも時間のかか らないよう参加しやすい内容にしまし た。子どもから大人まで多くの方に参 加していただきました。

飾りの部分は参加者がアレンジできるため、頭を悩ませる部分でもありましたが、沼にはまってしまった方も、

山 田 日登美

学芸部道民サービスグループ 解説員



写真2 パパよりママより、僕が一番!

試作でシュミレーションしてから飾りを制作することで簡単に楽しんでいただきました。慎重派の方や完成形をイメージしてリースを見つめたまま悩んでいる方も楽しみながら挑戦していました。

博物館に来られたら、今年も楽しい 期間限定イベントを各種予定しており まので、「はっけん広場」を訪ねてく ださい。お待ちしております。

第21回企画テーマ展

「森のちゃれんが宝箱」を開催しました

池田貴夫

北海道博物館の学芸員・研究職員が、過去に実施したクローズアップ展示(総合展示室に7か所設けられた展示コーナーで、テーマを決めて収蔵資料を定期的に入れ替えて紹介する展示)



の再展示、おすすめの一品、博物館ならではの活動紹介を行いました。2015年4月の北海道博物館の開設にあわせて実施した第1回企画テーマ展『学芸員 おすすめの1点 ようこそ北海道博物館へ』以来の、スタッフ紹介を兼ねた展覧会となりました。

企画段階で、どんな展覧会になるかは、正直、わかりませんでした。はたして、〈宝箱〉の空間となるか…。なにせ、それぞれの展示コーナーにおいて、スタッフそれぞれの関心が個々に表現される展覧会ですので…。ということもあり、タイトルの副題は「スタッフ一押しの収蔵資料や博物館活動を紹介する展覧会、いや、展乱会!?」となりました。

会期は、札幌雪まつりから春休みにかけて。寒い時期ではありましたが、 おかげさまで多くの方々にご覧いただ



写真 ただいま展示作業中!

きました。今回実施した展覧会によって、北海道博物館が所蔵する資料の可能性や当館が実施している諸活動についてあらためてご理解を深めていただくとともに、当館で活躍するスタッフの関心や専門性についてお知りいただけたでしょうか。そして、その展示空間が北海道博物館の〈使命〉を道民の皆様とあらためて共有し、北海道の未来づくりへとつながる文字通りの〈宝箱〉となったならば、嬉しく思います。

アイヌ民族文化研究センターだより

Zoomを使った講座を開催しました ~アイヌ語講座オンライン「アイヌ語の物語を読む」(全6回)~

当館初の試み

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインで開催されるイベントが増え、その後、感染が収束に向かうなかで、現地とオンラインの双方で開催されるハイブリッド型の催しも多くなりました。感染症対策に限らず、天候に左右されにくいことや遠方からでも参加ができることなど、オンラインイベントにはさまざまなメリットがあり、ここ5年ほどの間で定番の開催形式になったと言えるでしょう。

当館でも、2023(令和5)年の10月から2024(令和6)年3月にかけて、連続講座「アイヌ語講座オンライン「アイヌの物語を読む」」(全6回)を開催しました。Zoomミーティングを用いたオンラインでの講座の開催は、当館として初めての試みでした。

こんなことをしました

本講座では、アイヌ語の物語をひとつ読み切ることを目標にしました。使用したのは、当館所蔵の久保寺逸彦採録資料にある散文説話で、音声の録音はありませんが、久保寺逸彦によるローマ字筆記のノートおよびタイプ製本(写真参照)での記録が残されているものです。このアイヌ語表記は、現在ひろく使われている表記方法と異なるところがあるため、講座で使用するにあたって講師側で表記を変更したものを用意し、現在普及しているアイヌ語の辞典で調べやすいようにしました。

今回は、「アイヌ語の学習書などで 文法をひととおり学んだ方」という条 件で受講の募集をし、8名の方が参加さ れました。受講者の皆さんには事前に アイヌ語のみのデータを配布し、予習 として辞典などを使ってご自身で和訳 を付けていただきました。それぞれ付 けていただいた和訳は、講座中に各自 Zoomのチャットで送っていただき、講師の和訳と照らし合わせたうえで、講師が文法や単語の解説を行うという流れで行いました。

1回あたり2時間 (10分休憩を含む) の長丁場で、また、辞典に載っていない

単語もしばしば登場するような物語資料を扱いましたが、皆さん真摯に取り組んでくださり、無事完走することができました。

それぞれの良さを生かして

今回は札幌市外や本州在住の方も参加されており、オンラインのメリットが生かされたように思います。特に、 雪の降る冬期は、お近くにお住まいの方であっても遠隔で参加ができると便利かと思われます。

その一方で、現地で参加していただきたい行事があるのも事実…。当館ではさまざまな行事を行っていますが、その場で当館収蔵資料の現物を見たり、手を使ってものづくりをしたりするようなものは、現地でなければ行うことができません。また、行事の前後に当館の展示を観覧したり、講座の内容で気になったことを学芸職員に質問したり、すぐに図書室で調べたりすることができるというのは、現地開催ならではの魅力です。現地とオンライン、どちらの良さも生かしながら、当館行事を皆様に楽しんでいただけるよう努めていきたいと思います。

Shine-nishpa okkaipo a-ne hine s	n-an,
pak isonkur car-isam kur a-ne,wa	an-an
hike,keshpa-an kor kucha-ko-chis	
poro kucha-chise an orta arpa-an	
sumau-kor an kor yukar-kur a-ne	

写真 久保寺によるタイプ製本 (一部) (収蔵資料番号177211)

<講座概要>

アイヌ語講座オンライン「アイヌ語の 物語を読む」(全6回)

<講師>遠藤志保、吉川佳見

<日時>2023(令和5)年10月28日(土)、 11月25日(土)、12月23日(土)、2024(令 和6)年1月20日(土)、2月17日(土)、3月 16日(土)

各回13:30~15:30

<会場>オンライン(Zoom)

<定員>20名

※本講座は終了しました。また、今回 と同じ内容での講座開催については未 定ですが、オンラインの行事は令和6 年度も開催予定です。詳しくは令和6 年度の当館「行事あんない」などでお 知らせします。

(アイヌ民族文化研究センター 研究職員 吉川佳見)

活動ダイアリー

2023年12月~2024年2月の記録

12月2日 (土) ~24 (日) の土・日

■はっけんイベント「わらで作るミニミニお 正月リース」をはっけん広場で開催。

講師:解説員 12月10日(日)

> ■連続講座「ちゃれんが地学講座②」を開催。 講師:久保見幸

12月16日 (土)

■子どもワークショップ「化石を研究してみよう!」を開催。講師:成田敦史・圓谷昂史・久保見幸、写真1

12月16日 (土)

■総合展示クローズアップ展示、1~5テーマ を展示入替(①と②は、2月15日まで展示)。

①江戸時代終わりごろのイシカリー村山家の 文書と地図からー、写真2

②木戸竹石の《捕馬図屛風》

③アイヌの子どもの遊び歌 - 年寄りカラスは どうした? -

④モノから見るアイヌ文化-首飾りのいろいろ-⑤職人の道具と技術-鍛冶職人-、写真3

⑥レンガー日本の近代化を支えた建築材料ー
⑦標本DNAのタイムカプセル

12月17日 (日)

■ちゃれんがワークショップ「博物館で新年 祈願!? 日本の画材で絵馬づくり」を開催。 講師:田中祐未・三浦泰之・水島末記

12月23日 (土)

■連続講座 アイヌ語講座オンライン「アイヌ語の物語を読む③」を開催。講師:遠藤志保・吉川佳貝

1月6日 (土) ~2月4日 (日) の土・日・祝・振 ■はっけんイベント「羊毛ボールでボンバン ヨーヨーだよー」をはっけん広場で開催。

講師:解説員、写真4

1月7日 (日)

■ミュージアムカレッジ「ハレの日の装い」 を開催。講師:亀丸由紀子・尾曲香織、写真5 1月13日(十)

■連続講座「はじめての古文書講座①」を開催。世話人:東俊佑、**写真6**

1月14日 (日)

■特別イベント「博物館のウラ側を見てみよう」を開催。講師:鈴木琢也・櫻井万里子・高橋佳久・鈴木明世・鈴木あすみ、写真7

1月20日 (十)

■連続講座 アイヌ語講座オンライン「アイヌ語の物語を読む④」を開催。講師:遠藤志保・吉川佳目

■連続講座「はじめての古文書講座②」を開催。講師:東俊佑

1月21日 (日)

■連続講座「ちゃれんが地学講座③」を開催。 講師:圓谷昂史、**写真8**

1月27日 (土)

■連続講座「はじめての古文書講座③」を開催。講師:東俊佑

1月28日 (日)

■子どもワークショップ「博物館のなかで宝さがし」を開催。講師:舟山直治・池田貴夫、写真9

2月3日 (土)

■連続講座「はじめての古文書講座④」を開催。講師:東俊佑

来館者数

○2023年12月〜2024年2月 総合展示室 7,207人 特別展示室 2,253人 はっけん広場 1,122人 ○累計 (2015年4月〜2024年2月)

総合展示室 819,163人 特別展示室 570,549人 はっけん広場 125,430人

2月10日 (土)

■第21回企画テーマ展「森のちゃれんが宝箱 ースタッフイチ推しの収蔵資料や博物館活動 を紹介する展覧会、いや、展乱会!?-」を開 催(4月7日まで)。

■連続講座「はじめての古文書講座⑤」を開催。講師:三浦泰之

2月10日(土)~3月31日(日)の土・日・祝・振

■はっけんイベント「カラフル経木で『あじるコースター』を作ろう」をはっけん広場で 開催。講師:解説員

2月11日 (日)

■連続講座「ちゃれんが地学講座④」を開催。 講師:成田敦史

2月16日 (金)

■総合展示クローズアップ展示、1テーマを 展示入替。

⑩北広島市で新たに発見されたクジラ化石

①仙台藩石巻漂流民が見たロシア極東

ー「環海異聞」をもとに-②新しく仲間3.41した歴史姿料たち

②新しく仲間入りした歴史資料たち

2月17日 (土)

■連続講座「はじめての古文書講座⑥」を開催。講師:三浦泰之

■連続講座 アイヌ語講座オンライン「アイヌ語の物語を読む⑤」を開催。講師:遠藤志保・吉川佳見

2月24日 (土)

■連続講座「はじめての古文書講座⑦」を開催。講師:三浦泰之

2月25日 (日)

■子どもワークショップ「ヒツジの毛にふれてみよう①初めての草木染め」を開催。

講師:会田理人



写直1



写真2



写真3



※■は展示活動、■は教育普及活動です。

写真4



写真5



写真6



写真7



写真8



写真9

森のちゃれんがニュース 第35号

発行日:2024年3月29日 編集・発行:北海道博物館

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 Tel. (011) 898-0456 Fax. (011) 898-2657 ウェブサイト https://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp

©Hokkaido Museum, 2024